

2 中等教育研究協議会プログラム

文部科学省研究開発（継続）第3年次

青年期のキャリア形成につながる学びの力

—多角的なアプローチを通して—

名古屋大学教育学部附属中・高等学校中等教育研究協議会

主催 名古屋大学教育学部附属中・高等学校
 名古屋大学大学院教育発達科学研究科・教育学部
 後援 愛知県教育委員会
 後援 名古屋市教育委員会

◆◆◆◆ ご 案 内 ◆◆◆◆

教科書に書いてあること、教師が教えてくれたことを子どもがひたすらインプットしていく従来型の学習から、生徒自らが「発疑→解疑」していく型の学習へとパラダイムを転換していくことが、今求められています。すなわち、生徒自らが疑問を立て、その疑問を解決することへ向かって、自ら新しい知識や技能を求め、自分で資料を蒐集し、踏査し、あるいは実験しながら、疑問を解決していく過程で自然と新たな知識や技能が身についていくという形の学習への転換です。この時、教師は、子どもたちの「発疑→解疑」活動が、望ましい方向で活発に、しかも螺旋的に向上していく形で発動し、進展していくよう促す鼓舞者であり、水先案内人であり、コーディネーターでもあるのです。この種の学習活動こそ、21世紀型の学びの力であると考えています。

本校は、平成12年度から文部科学省の研究開発学校として「青年期のキャリア形成」に資する教育課程の研究開発に取り組んでまいりました。社会的コンピテンスを高める「ソーシャルライフ」の授業開発や大学の学問領域につながるテーマを多面的に学ぶ新教科群（高）の授業開発では、名古屋大学の先生をはじめ多くの先生方のご指導、ご協力を得ながら、この種の学習の具現化に努めて、生徒一人ひとりの「個性的な自立」を育んでまいりました。

また、大学連携講座「学びの杜（学術コース）」（高）では、名古屋大学の各研究科（法・理など）と協同で、「21世紀型の学びの力」をより発展的に習得できるように取り組んでまいりました。そして漸く、何とか形ができてきたのではないかと、思っています。

でも、ここまでは、P-D-S-I (Improvement) の連続でした。いや、未だこの種の教育改革の第一歩を踏み出したばかり、というのが正直なところでしょう。どうか、私たちの実践研究の公開をご覧頂き、忌憚のないご意見、ご指摘をもって[S→I]へのベクトルに一層の「活」を入れていただくことをお願い申し上げます。皆様方からの「活」を介して、さらに一層わが附属学校教育のP-D-S-Iに精進し、このような学習を既存教科へも拡大して、それらとの相乗効果を目指していきたいと考えています。

おかげさまで、愛知県教育委員会、ならびに名古屋市教育委員会のご後援もいただくことができました。つきましては、ご多用中とは存じますが、貴校の先生方の多数のご参加をいただき、ご指導、ご助言を賜りますようご案内申し上げます。

この機会に、私たちの日頃の取り組みの一端をぜひご覧いただき、そして研究協議にご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

名古屋大学教育学部附属中・高等学校長
 豊田ひさき

名古屋大学教育学部附属中・高等学校 中等教育研究協議会

1 主題

青年期のキャリア形成につながる学びの力
 —多角的なアプローチを通して—

2 期日

2006（平成18）年2月10（金）

3 日程

9:20 10:00 10:50 11:50 12:50 14:40 15:00 16:20

受付	中・高 1時間 公開授業	授業検討会	昼食	分科会	移動	全体講演
	中・高 2時間 公開授業					

4 会場

公開授業 本校各教室
 分科会 本校各教室
 講演会 本校第1体育館

5 内容

(1)公開授業 10:00~11:50

■中学校

[教科の授業と特色のある授業]

1限 10:00~10:50 (中学1年生総合人間科のみ10:00~11:50)

学年	科目・題目	テーマ・ねらい	授業内容	授業者・研究協力者
【教科の授業】				
	地理	環境と開発	沖縄を題材にしたグループ学習を基礎にそれぞれの学習内容を探求し、環境と開発という問題を考える。	中野 和之
【キャリア教育】 中高の6年間を通して育てるキャリア (学びの力、自立の力、人とかかわる力) 形成				
1年	総合人間科 高校3年生 と合同	総合的学習を活用した「キャリア教育」の取り組み	授業の前半では、中学1年生に向けて高校3年生が本校での学校生活を振り返り、特に総合的学習(総合人間科)での経験が自らのキャリア意識の形成にどのように寄与したかを語る。その話をきいて中学1年生が積極的な学びの姿勢をもつきっかけとなるようにする。	佐藤 俊樹 寺井 一 山田 玲子 今村 敦司 加藤 容子 *11時頃より、中1に話をした高校3年生に卒業生も加わり、総合的学習とキャリア形成についての座談会を行います。
【ソーシャルライフ】 心の教育として人間行動の理解を深め、体験的に対人関係構築スキルを学ぶ				
2年	ソーシャル ライフ	人の心理の特色の一つであるステレオタイプ(様々な規準によって人間をグループ分けする傾向)に基づいた認知という観点から人の心理を考える。	ある人物についての特徴を文章であらわした内容や説明を元に、その印象や人間関係について考えさせる。この作業を通してステレオタイプの認知の存在について解説する。生徒が考え、感じ、気づくことに重点を置く。	川合 勇治 飯島 幸久 *11:00よりソーシャルライフの授業検討会を行います。 研究協力者: 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 吉田 俊和先生
【教科の授業】				
	基礎英語	意志伝達の手段としての英語学習	セルフコンフィデンスの育成を目指し、伝えたい、伝えようとする気持ちの違いが英語学習に与える影響を探る。一方で、常に基礎学力育成のため、フルセンテンスでの質疑応答に重点を置いた学習活動を行う。	薫森 英夫
【ソーシャルライフ】 心の教育として人間行動の理解を深め、体験的に対人関係構築スキルを学ぶ				
3年	ソーシャル ライフ	相互依存的な社会においてどのように行動することが望ましいかを「2つじゃんけん」というゲームを用いて体験させる。	「2つじゃんけん」ゲームで高得点を得るためには、どうすればよいかを理解させるとともに「2つじゃんけん」と同じような状況が、日常場面でも数多く存在することを指摘し、ゲームから得られた知見を日常場面に応用して考えさせる。	中村 明彦 大林 直美 *11:00よりソーシャルライフの授業検討会を行います。
【教科の授業】				
	基礎数学	数学的な思考力の向上を目指した数学学習	基礎数学では従来の授業に加え、概念理解重視型指導法を行っている。授業の中での生徒の気づきや発言を元に、数学学習における概念理解重視型指導法の意義を探る。	嘉賀 正泰 *11:00より基礎数学の授業検討会を行います。 研究協力者: 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 藤村 宣之先生

■高等学校

[教科の授業]

1限 10:00~10:50

学年	科目・題目	テーマ・ねらい	授業内容	授業者・研究協力者
1年	【教科の授業】			
	理科総合	TTによる高1理科総合の新たな取り組み	1クラスを2つのグループに分け生物と化学の授業を行う。TTを生かし実験を取り入れ、高2の生物、化学の学習につながる興味・関心を育てる活動を行う。	西川 陽子 水谷 成仁
	国語総合	TTによる古典学習の取り組み。平家物語「能登殿最期」をグループで読み味わう。	平家物語についての内容や和漢混濁文のリズム・文体・情景などの理解をふまえ古典学習のまとめとして、3人グループで平家物語の「能登殿最期」の一場面を選び朗読する。発表に向けての話し合いと練習を通して登場人物や作品世界への理解を深めるとともに、それぞれのグループの朗読を聞き合うことで多面的に「平家物語」の作品世界を味わう。	斉藤 真子 杉本 雅子 *11:00より国語総合の授業検討会を行います。 研究協力者： 名古屋大学大学院 文学研究科 斉藤 文俊先生

[新教科と総合的な学習の時間（総合人間科）]

1限～2限 10:00～11:50

学年	科目・題目	テーマ・ねらい	授業内容	授業者
1年	【新教科群】4つの領域からなる大学の学問領域につながるクロスカリキュラムの授業			
	「自然と科学」	クロスカリキュラムで育む科学的思考力	「自然と科学」では、1つのテーマを追究するために、理科・社会・数学の3つのグループに分けて授業を展開したり、必要に応じて合同授業を行ったりしている。3つのグループから意見を出し合うことなどを通して、知識をより深め考え合う活動を行う。	山田 孝 (社会) 渡辺 武志 (数学) 竹内 史央 (理科)
2年	【新教科群】4つの領域からなる大学の学問領域につながるクロスカリキュラムの授業			
	「平和と共生の科学」	「持続可能な地球社会」について理解し、どのような行動につなげることができるのか考える。	私たちを取り巻く国際社会の矛盾、限界を改めて認識することで、その関連性について多角的に考える。私たちが「持続可能な地球社会」のために今何をしなければならぬのか、その解決策を生徒どうし話し合いの中で摸索し考える。	原 順子 (家庭) 高橋 伸行 (理科) 三小田博昭 (英語) アドバイザー 佐藤 良子先生 (異文化コミュニケーション専攻)
3年	【キャリア教育】中高の6年間を通して育てるキャリア (学びの力、自立の力、人とかかわる力) 形成			
	総合人間科 (中学1年生と合同) 11時頃より、中1に話をした高校3年生に卒業生も加わり、自らの総合的な学習 (総合人間科) とキャリア形成について語り合う座談会を行う。			

(2)分科会 12:50~14:40

分科会名	テーマ	協議内容	発表者・研究協力者
A 教室で学ぶ人間関係構築スキル	中学3年間の「ソーシャルライフ」の実践から人間関係構築スキルを考える	中学1年ソーシャルライフ(SL)は教室の中での活動を中心とした授業内容ではあるが、認知的指導に頼ることもあり、SLで得られた知識の現実の生活場面への応用可能性が疑問視された。予防的かつ実践的なSLに関する知識・技術が現実に機能する指導・支援の観点を提示する。また、昨年度から中学2・3年生での新たな実践が行われている。3年間の全体図を提示しながら、中学各学年の発達段階に応じたSLの授業内容を提示し、検討する。	鈴木 克彦 中村 明彦 木下 雅仁 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 吉田 俊和先生
B 「総合的学習」から考えるキャリア形成	総合的な学習の時間「総合人間科」による発達段階ごとのキャリア形成を考える	中高6ヵ年でどのように生徒がキャリア意識を形成していくかを探る。特に、自ら課題を設定・調査・発表・報告する総合的学習(総合人間科)での主体的取り組みが、生徒の中でどのようにキャリア意識の形成に貢献したかを考察する。また、「総合的学習」やキャリア教育に関する意見交換や討論も行う。	佐藤 俊樹 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 金井 篤子先生
C 「新教科」の実践から考える教科の学び	4つの「新教科」の授業実践を通して21世紀型の学びを考える	新教科群は「心と身体の科学」「自然と科学」「国際コミュニケーション学」「平和と共生の科学」の4つの講座に分かれている。本校独自の教科である「新教科」の授業の実践報告を行い、その成果と課題を討議する。さらに、新教科で育てる学びの力について検討し、これからの教科の学びのあり方についても考える。	石川 久美 三小田博昭 渡辺 武志 中部大学 国際人間学研究科 野田 真里先生 アドバイザー 佐藤 良子先生 (異文化コミュニケーション専攻)
D 併設型中高一貫カリキュラム評価と学力	~本校の目指す8つの力~ 学力をどうとらえ、どのように教育実践に生かすか	本校でつけさせたい学力についての経緯や内容を説明したうえでアンケート調査の概要・結果を発表し、その分析から成果と課題について協議する。	今村 敦司 名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 藤村 宣之先生
E 大学連携講座の取り組みと学びの力	~高校生はどのように学び、探究するか~ 大学連携講座「学びの杜」の取り組みの成果と課題	高校生が大学の最先端の研究者から研究内容について、直接学ぶことで得られるものは多い。大学での専門的な研究につながる自分の適性や興味・関心を知ることで、研究テーマの探究のために必要な問題発見能力と問題解決能力を具体的にイメージできるからである。大学連携講座「学びの杜」の実施内容や方法とその成果について高校側と大学側の双方からの評価をふまえ、大学連携講座の取り組み方の成果と今後の方向性について協議する。	パネルディスカッション *コーディネーター 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 村上隆先生 *パネリスト 名古屋大学大学院情報科学研究科 高等教育研究センター 戸田山和久先生 名古屋大学大学院教育発達科学研究科 速水 敏彦先生 あいち・知と技の探究教育特区事業関係者

(3)15:00~16:20 全体講演

「21世紀型の学力とキャリア形成」

梶田 正巳先生 (中部大学人文学部心理学科)

6 申し込み方法

1 申し込み 申込書にご記入の上郵送、またはFAX、もしくはE-mailでご連絡下さい。

2 参加費 3,000円 (〔新教科〕新刊書籍代・本校紀要・資料代を含む)

3 申込締め切り 平成18年1月27日(金)

4 送り先 〒464-8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

研究協議会 事務局 宛

TEL: (052) 789-2680, 2681

FAX: (052) 789-2696

URL <http://highschl.educa.nagoya-u.ac.jp/>

E-mail: kenkyu@highschl.educa.nagoya-u.ac.jp

7 会場案内

お願い: 本校の駐車場はありませんので、公共交通機関でお越しください。地下鉄名城線「名古屋大学」3番出口より徒歩5分です。(別紙を参照してください。)